

研究推進だより NO. 2

令和3年 7月16日
大田区立 出雲小学校
校長 関 真理子
研究主任 岩崎 光子

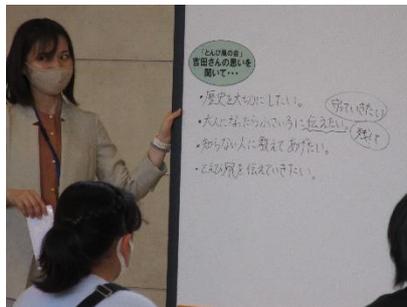
令和3年度校内研究主題 未来を創る力の育成 ～未来ものづくり教育を通して～

6月21日(月)第2回目の研究授業では、5年分科会として総合的な学習の時間「引き継ごう 伝統工芸～六郷とんび凧」の学習を柴田 佳織主任教諭、2年分科会として図画工作科「光のプレゼントを届けよう～ステンドグラスアート～」の学習を吉留 未紗教諭が行いました。

高学年の目指す児童像

- ものづくりに携わる人々の工夫、努力、喜び、苦労を知り、ものづくりを楽しむことができる子
- 身の回りの環境や人々の困り感に気付き、自分たちには何ができるか考えることができる子
- 学習したことを活用して、イメージしたことを試行錯誤しながら表現できる子

総合的な学習の時間「引き継ごう 伝統工芸～六郷とんび凧」



この単元では、大田区六郷地区で誕生した「六郷とんび凧」を取り扱いました。学習の流れは、まず「六郷とんび凧の会」の方々と交流をし合い、「六郷とんび凧」ができた由来やつくり方について学習しました。実際に凧に触れる中で、伝統工芸品を「守っていこう」「伝えていこう」という思いを育てることをねらいとしました。

6月に入って子どもたちは、とんび凧作りを開始しました。紐の結び方や、竹ひごを使って骨組みを作るなど苦労しながらも何とか、一人一人が好きな色を塗ったとんび凧を完成させました。

21日(月)の研究授業では、六郷とんび凧の会 会長吉田恒男様に「なぜとんび凧を作り続けるのか」「とんび凧がこれからどうなってほしいのか」等についてインタビューをしました。子どもたちは、吉田恒男さんの想いを知り、「とんび凧を引き継ぎたい」「もっととんび凧を広めたい」と考えました。その後、グループごとにとんび凧を「誰に」「何を」「どのように」伝えて、広めていくかを考えました。

研究授業から数日、完成したとんび凧をやっと揚げることができました。風をいっぱいを受けたとんび凧は、高く揚がっていました。そして今、グループごとに考えたとんび凧を広める計画を、試行錯誤しながら進めています。今後も友達と協働的に学びながら、ものづくり教育が進められるようにしていきます。

「ものづくり教育」と「総合的な学習の時間」との関わり

講師の齋藤 博伸先生からは、「ものづくり教育」と「総合的な学習の時間」について、具体的に示唆していただきました。「総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント」の仕方や、児童にはっきりしたゴールを示し、授業を組み立てることの大切さ、外部講師とのかかわり方等、学びを深めることができました。

今後の授業づくりに生かすことができる、貴重な時間となりました。



文部科学省初等中等教育局教育課程
教科調査官 齋藤 博伸 先生

低学年の目指す児童像

- ものをつくることを楽しみながらすすんで取り組む子
- くふうしながらものづくりに取り組む子
- お互いのよさを見付け合うことができる子

第2学年 図画工作科「光のプレゼントを届けよう～スタンドグラスアート～」



第2学年図画工作科では、「光のプレゼントを届けよう～スタンドグラスアート～」と題材に取り組みました。これまでに2学年の子どもたちは、「東大 CAST」から光の不思議について体験したり、光に透ける材料を用いた造形遊びをしたりしてきました。さらに、本授業の前には、「東京ガラス工芸研究所」の大本研一郎氏をゲスト講師に招き、光を通す材料の一つであるガラスについて見たり、触ったりし、感性を培いました。学習の最後に、子どもたちがデザインしたスタンドグラスの最後の1ピースをはめ込む場面を実際に見たとき、子どもたちから感動の声があふれていました。

スタンドグラスアートづくりは、画用紙にデザインし、カッターで切り抜く「型づくり」と、切り抜いたところに透けるカラーセロファン、花折り紙、色とりどりなすけるテープの3種類の材料を貼り、色を付ける「光の色付け」の2つの工程を行いました。本学習では、「光の色付け」を行いました。子どもたちは、材料やのりの扱い方に苦悩しながらも、集中して取り組んでいました。工夫したところの共有では、「花折り紙とセロファンを使い分けました。」「黄色と赤のセロファンを重ねてオレンジにしました。」など学習のポイントを掴んでいる意見も上がりました。その後の仕上げの時には、どの子も材料選びや重ね方を工夫した作品づくりが見られました。

「未来ものづくり教育」の視点について

講師の清水 一豊先生からは、本来スタンドグラスのような作品づくりは、3～6年で行うのが通常である高度な内容だが子どもたち一人一人が作品に集中して向き合っていたこと等の講評をいただきました。

子どもの巧緻性を高めるためには、デンプンのりを指で塗るなどの指先での経験の大事さや、培ったスタンドグラスへの興味・関心を生活科の町探検でスタンドグラスを探すことで生かせることなどを学ぶことができました。

今回学んだことを生かして、子どもたちの豊かな想像力への学びにつなげていきます。



立正大学 清水 一豊 先生